

野鳥撃退にレーザー



クルナムーブで照射するドローン
(千葉市で)

NTTイードローン
とNTT東日本千葉事
業部は、千葉県と連携
して、忌避レーザーを
搭載したドローンによ
る高病原性鳥インフル

ープが手がけた鳥獣害
対策ドローン「BB1
02」で、地域総研が
研究開発・製造した
「クルナムーブ」とい
うレーザーを照射する
装置を搭載している。
レーザーは赤と緑の光
がランダムに照射さ
れ、鳥獣の目に当てて
追い払う。カラスの他
にも鹿やイノシシ、
鳩、ハクビシンなどで
効果が実証されてお
り、ちらつきを生じさせ
て慣れを防ぐ。

ドローンは自動航行
エンザ対策を進めてい
ることでカラスなどの
野鳥を遠ざけ、同病を
防ぐ狙い。
使うのはNTTグル

ープが手がけた鳥獣害
対策ドローン「BB1
02」で、地域総研が
研究開発・製造した
「クルナムーブ」とい
うレーザーを照射する
装置を搭載している。
レーザーは赤と緑の光
がランダムに照射さ
れ、鳥獣の目に当てて
追い払う。カラスの他
にも鹿やイノシシ、
鳩、ハクビシンなどで
効果が実証されてお
り、ちらつきを生じさせ
て慣れを防ぐ。

でき、レーザー部分は
左右に動き広範囲の照
射が可能だ。価格は本
体、バッテリー、講習
料などを含めおよそ3
00万円。10月から販
売を開始している。
10月に千葉市で行つ
たデモフライトでは、
参加した県内の養鶏業
者から「これだけの対
策で足りるとは思わな
いが、複合的な対策を
考えたときに有効かも
しない」と期待の声
が上がった。

神奈川県での実証実
験では、1カ月に8日
間、1日当たり2時間
飛ばすことでカラスが

養鶏場に寄らなくなっ
た。1カ月後は数羽が
養鶏場にいた程度で持
続性も期待できるとい
う。(中村敦信)

公式ウェブ
動画掲載

